

商 業

1 教育課程研究協議会の経過（平成21年度～24年度）

平成21年度から24年度までの手引及び教育課程研究協議会の概要は次のとおりである。

	手 引 の 概 要	説 明 及 び 協 議 の 概 要
平成 21 年 度	<ol style="list-style-type: none"> 1 科目構成 2 改訂の基本方針 3 改訂の内容 <ol style="list-style-type: none"> (1) 目標 (2) 各科目 4 質疑応答 	<ol style="list-style-type: none"> 1 説明 <ol style="list-style-type: none"> (1) 科目構成、標準単位数について (2) 4分野で育成する能力について (3) 各科目の目標及び内容とその取扱いについて 2 協議 <ol style="list-style-type: none"> (1) 改訂学習指導要領と現行学習指導要領との比較 (2) 各科目との比較
平成 22 年 度	<ol style="list-style-type: none"> 1 全般的事項 2 ビジネス実務 3 商品開発 4 ビジネス経済・ビジネス経済応用 5 管理会計 6 ビジネス情報管理 	<ol style="list-style-type: none"> 1 説明 <ol style="list-style-type: none"> (1) 科目編成について (2) 科目の履修及び指導計画の作成について (3) 各科目のねらい及び内容の構成について 2 協議 <ol style="list-style-type: none"> (1) 新設された科目の学習内容 (2) 地域や産業界等との連携・交流を通じた実践的な学習活動
平成 23 年 度	<ol style="list-style-type: none"> 1 教育課程の編成 <ol style="list-style-type: none"> (1) 基本的な考え方 (2) 配慮すべき事項 (3) 特色ある教育課程の編成 2 指導計画の作成と内容の取扱い <ol style="list-style-type: none"> (1) 指導計画の作成 (2) 内容の取扱い (3) 「ビジネス基礎」の指導計画（例） 3 言語活動を充実する学習指導の実践例 	<ol style="list-style-type: none"> 1 説明 <ol style="list-style-type: none"> (1) 教育課程の編成に係る全体事項について (2) 指導計画の作成と内容の取扱いについて (3) 言語活動を充実する学習指導の実践例について 2 提言 <ol style="list-style-type: none"> (1) 思考力・判断力・表現力等の育成について (2) 言語活動を取り入れた学習活動について
平成 24 年 度	<ol style="list-style-type: none"> 1 学習指導の改善・充実 <ol style="list-style-type: none"> (1) 学習指導の改善・充実の視点 (2) 効果的な学習指導 2 評価方法の改善・充実 <ol style="list-style-type: none"> (1) 学習評価の基本的な考え方 (2) 学習評価における配慮事項 3 学習評価の具体例 <ol style="list-style-type: none"> (1) 「ビジネス基礎」の学習評価の例 (2) 観点別評価の進め方 (3) 観点別評価の総括 	<ol style="list-style-type: none"> 1 説明 <ol style="list-style-type: none"> (1) 学習指導の改善・充実について (2) 評価方法の改善・充実について (3) 学習評価の具体例について 2 提言 <ol style="list-style-type: none"> (1) 思考力・判断力・表現力等の育成について (2) 学習意欲の向上を図るための指導と学習評価

2 指導と評価を円滑に行うための年間指導計画の作成

(1) 教科「商業」の目標

教科「商業」の目標は、①商業の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させること。②ビジネスの意義や役割について理解させること。③ビジネスの諸活動を主体的、合理的に、かつ倫理観をもって行わせること。そして、①、②、③を通じて④経済社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てることの4つに分けられ、④が最終的な目標である。

(2) 教科「商業」の学習評価の在り方

学習評価は、学習指導要領の趣旨や改善事項、教科「商業」の目標などを適切に反映し、実施していくことが求められており、学習評価の計画を作成するに当たっては、授業でどのような力を育成するかといったねらいを明確にすることが必要である。

育成する力が明確になると、それを実現するための指導計画が決まり、育成する力に対応して評価の観点が決まる。指導計画と評価の観点が決まると、設定した目標についてどのような学習状況を実現すれば良いかを想定することができることから、指導計画で示した学習活動に即した評価規準が決まる。それに基づいて評価を行うことにより、生徒の学習状況を分析的に捉えることができるようになる。

このような目標に準拠した評価による観点別学習状況の評価は、その結果を生徒に還元することを通して生徒の学習の改善、学習意欲の向上、学習の確実な定着につながることを期待できるとともに、指導を振り返り、学習指導の改善を図ることができるなど、大きな意義を持つものである。

こうしたことから、学習状況の評価を学習指導に係るP D C Aサイクルの中で適切に実施するなど、学習評価の工夫改善に学校全体として、組織的・計画的に取り組むことが大切である。

なお、本手引の評価に関する記述は、国立教育政策研究所教育課程研究センター作成「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料（高等学校 専門教科）」を参考としている。

(3) 科目「ビジネス基礎」における指導計画

ア 評価の観点の趣旨

「ビジネス基礎」の特性に応じた評価の観点の趣旨は次のとおりである。

科目の目標	ビジネスに関する基礎的な知識と技術を習得させ、経済社会の一員としての望ましい心構えを身に付けさせるとともに、ビジネスの諸活動に適切に対応する能力と態度を育てる。		
評価の観点の趣旨			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
ビジネスについて関心を持ち、ビジネスの諸活動への適切な対応を目指して主体的に取り組もうとするとともに、経済社会の一員としての望ましい心構えや実践的な態度を身に付けている。	ビジネスの諸活動への適切な対応を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、ビジネスの諸活動に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。	ビジネスに関する基礎的・基本的な技術を身に付け、ビジネスの諸活動への適切な対応を合理的に計画し、その技術を適切に活用している。	ビジネスに関する基礎的・基本的な知識を身に付け、経済社会の一員として望ましい心構えについて理解している。

イ 年間指導計画における評価計画の作成例（3単位）

単元「2 ビジネスとコミュニケーション」については、「ウ 単元の指導計画の作成例」に記載したため、ここでは省略する。

月	単元（項目）	具体的な学習内容	評価の観点	評価の方法	予定時数
4	オリエンテーション (ビジネス基礎の学習について)	・ビジネス基礎の学習の意義や内容、学習の進め方、評価の方法について理解させる。	【関心・意欲・態度】 ・商業の学習について関心を持ち、商業を学ぶ目的と学び方、商業の学習分野と職業との関連及び卒業後の進路について探究しようとしている。	・観察 ・スクラップブック ・レポート ・ノート ・発表用資料 ・発表の内容 ・ワークシート ・自己評価票 ・単元テスト	12
5	1 商業の学習ガイダンス (1) 商業を学ぶ目的と学び方 (2) 商業の学習分野と職業	・将来のスペシャリストに必要とされる専門性の基礎・基本の学習の重要性について理解させる。 ・商業の学習を通して、ビジネスの諸活動を理解させ、実践力、倫理観、責任感、協調性などを身に付けることにより、豊かな人間性が育まれることを理解させる。 ・商業の学習分野の概要、主体的な学び方、生涯にわたる継続的な学びの重要性について理解させる。 ・マーケティング、ビジネス経済、会計、ビジネス情報の各分野の科目内容や目標について理解させるとともに、商業の学習と職業との関連、卒業後の自己の進路について考えることの重要性について理解させる。	【思考・判断・表現】 ・商業を学ぶ目的と学び方、商業の学習分野と職業との関連及び卒業後の進路について思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に適切に判断し、導き出した考えを表現している。 【技能】 ・商業の学習に関する資料を収集し、得られた情報のもつ意味を読み取り、整理している。 【知識・理解】 ・商業の学習に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、商業を学ぶ目的と学び方、商業の学習分野と職業との関連及び卒業後の進路について理解している。		
7	3 ビジネスと売買取引 (1) 売買取引とビジネス計算の基礎	・流通活動における売買契約の意義、条件、締結と履行、商品の数量と代価の計算などビジネス計算について理解させる。	【関心・意欲・態度】 ・売買取引について関心を持ち、売買契約の意義や売買取引の流れ、ビジネス計算及び代金決済の手段について探究しようとしている。	・観察 ・スクラップブック ・レポート ・ノート ・ワークシート ・計算練習の取組状況 ・自己評価票 ・単元テスト ・定期考査	25
8			【思考・判断・表現】 ・売買契約の意義や売買取引の流れ、ビジネス計算及び代金決済の手段について思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に適切に判断し、導き出した考えを表現している。 【技能】 ・ビジネス計算に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、適切に活用したり、売買取引に関する資料を収集し、得られた情報のもつ意味を読み取り、整理したりしている。 【知識・理解】 ・売買取引に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、売買契約の意義や売買取引の流れ及び代金決済の手段について理解している。		
9	(2) 代金決済	・通貨、小切手、約束手形、為替手形の意味を理解させるとともに、預金の振替、クレジットカード、電子マネーなど代金決済の手段と仕組みについて理解させる。			
10	4 経済と流通の基礎 (1) 経済の基礎	・生産要素の希少性など経済活動の循環について理解させる。	【関心・意欲・態度】 ・経済と流通について関心を持ち、生産要素の希少性、経済主体の役割、ビジネスの役割と発展、流通の意義と役割、ビジネスの担い手の役割などについて探究しようとしている。	・観察 ・スクラップブック ・レポート ・ノート ・ワークシート ・自己評価票 ・単元テスト ・定期考査	37
	(2) ビジネスの役割と発展	・ビジネスの意義や役割、我が国のビジネスの発展、ビジネスの課題について理解させる。	【思考・判断・表現】 ・生産要素の希少性、経済主体の役割、ビジネスの役割と発展、流通の意義と役割、ビジネスの担い手の役割などについて思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に適切に判断し、導き出した考えを表現している。 【技能】 ・経済と流通に関する資料を収集し、得られた情報のもつ意味を読み取り、整理している。 【知識・理解】 ・経済と流通に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、生産要素の希少性、経済主体の役割、ビジネスの役割と発展、流通の意義と役割、ビジネスの担い手の役割などについて理解している。		
11	(3) 経済活動と流通	・経済活動における流通の意義や役割、生活水準の向上などによる流通の役割の変化について理解させる。			
12	(4) ビジネスの担い手	・流通に関わる担い手の役割や仕事の概要について理解させる。			

ウ 単元の評価計画の作成例（3単位）

科目名	ビジネス基礎	単元名	ビジネスとコミュニケーション	
単元の目標	ビジネスに対する心構え、コミュニケーションの基礎、情報の入手と活用の方法を学習し、ビジネスの諸活動を円滑に行う能力と態度を身に付けさせる。			
単元の評価規準	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
	コミュニケーションについて関心をもち、ビジネスに対する心構え、コミュニケーションの必要性と方法及び情報の入手と活用について探究しようとしている。	ビジネスに対する心構え、コミュニケーションの必要性と方法及び情報の入手と活用について思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に適切に判断し、導き出した考えを表現している。	コミュニケーションに関する基礎的・基本的な技術を身に付け、適切に活用したり、ビジネスにおけるコミュニケーションに関する資料を収集し、得られた情報のもつ意味を読み取り、整理したりしている。	コミュニケーションに関する基礎的・基本的な知識を身に付け、ビジネスに対する心構え、コミュニケーションの必要性及び情報の入手と活用について理解している。
学習活動に即した評価規準				
学習活動	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
第1次（4時間） ビジネスに対する心構え	・ビジネスに対する心構えについて関心をもち、ビジネスマナーの意義や必要性、基本的なビジネスマナー、望ましい人間関係構築の意義や必要性及びビジネスに対する望ましい心構えや考え方について探究しようとしている。	・ビジネスマナーの意義や必要性、基本的なビジネスマナー、望ましい人間関係構築の意義や必要性及びビジネスに対する望ましい心構えや考え方について思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に適切に判断し、導き出した考えを表現している。	・ビジネスマナーに関する基礎的・基本的な技術を身に付け、適切に活用している。 ・ビジネスに対する心構えに関する資料を収集し、得られた情報のもつ意味を読み取り、整理している。	・ビジネスに対する心構えに関する基礎的・基本的な知識を身に付け、ビジネスマナーの意義や必要性、望ましい人間関係構築の意義や必要性及びビジネスに対する望ましい心構えや考え方について理解している。
評価の方法	ワークシート	ワークシート	レポート	ワークシート 単元テスト
第2次（7時間） コミュニケーションの基礎	・コミュニケーションについて関心をもち、ビジネスの諸活動を円滑に行う上でのコミュニケーションの必要性と方法について探究しようとしている。	・ビジネスの諸活動を円滑に行う上でのコミュニケーションの必要性と方法について思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に適切に判断し、導き出した考えを表現している。	・ビジネスの場面に応じたコミュニケーションの方法に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、適切に活用している。 ・コミュニケーションの必要性と方法に関する資料を収集し、得られた情報のもつ意味を読み取り、整理している。	・コミュニケーションに関する基礎的・基本的な知識を身に付け、ビジネスの諸活動を円滑に行う上でのコミュニケーションの必要性について理解している。
評価の方法	ワークシート レポート ロールプレイング	ワークシート	ワークシート レポート	ワークシート 単元テスト
第3次（5時間） 情報の入手と活用	・情報の入手と活用について関心をもち、ビジネスの諸活動に必要な情報の所在及び情報の信頼性を見極めることの重要性について探究しようとしている。	・ビジネスの諸活動に必要な情報の所在及び情報の信頼性を見極めることの重要性について思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に適切に判断し、導き出した考えを表現している。	・情報の入手と活用に関する資料を収集し、得られた情報のもつ意味を読み取り、整理している。	・情報の入手と活用に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、ビジネスの諸活動に必要な情報の所在及び情報の信頼性を見極めることの重要性について理解している。
評価の方法	ワークシート	ワークシート 発表用資料	レポート スクラップブック	ワークシート 単元テスト

3 観点別学習状況の観点別の総括

観点別評価について、単元「ビジネスとコミュニケーション」を取り上げ、(1)単元における評価の総括から、(2)学期末における評価の総括、(3)学年末における評価の総括につながる流れを、例として次に示す。

観点別評価の総括方法例	
<p><達成の状況と点数化について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「十分満足できる」状況と判断されるものをA、「おおむね満足できる」状況と判断されるものをB、「努力を要する」状況と判断されるものをCとする。 ・Aを3点、Bを2点、Cを1点とする。 	
<p><達成率と3段階の評価について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・80%以上をA、50%以上80%未満をB、50%未満をCとする。 	
<p><達成率と10段階の評価について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・90%以上を「10」、80%以上90%未満を「9」、70%以上80%未満を「8」、60%以上70%未満を「7」、50%以上60%未満を「6」、40%以上50%未満を「5」、30%以上40%未満を「4」、20%以上30%未満を「3」、10%以上20%未満を「2」、10%未満を「1」とする。 	
<p><達成率と5段階の評定について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・90%以上を「5」、80%以上90%未満を「4」、50%以上80%未満を「3」、40%以上50%未満を「2」、40%未満を「1」とする。 	

(1) 単元における評価の総括例

単元の観点別評価は、学習活動に即した評価規準に照らして行った評価を点数化して合計し、達成率を算出したものを3段階にして、評価を算出した。

氏名	評価の観点	第1次				第2次				第3次				達成率 (%)	単元の総括
		①	②	③	④	①	②	③	④	①	②	③	④		
〇〇〇〇	関心・意欲・態度	B (2)				A (3)	B (2)			B (2)	B (2)			73% (四捨五入) <11÷15>	B
	思考・判断・表現	A (3)				B (2)				A (3)			A (3)	92% (四捨五入) <11÷12>	A
	技能		C (1)			B (2)	C (1)					C (1)	B (2)	47% (四捨五入) <7÷15>	C
	知識・理解	B (2)		A (3)		B (2)		B (2)		C (1)		B (2)		67% (四捨五入) <12÷18>	B

※ ①ワークシート、②レポート、③単元テスト、④その他（ロールプレイング、発表用資料、スクラップブック）

※ ()内の数値は、評価を点数化したものである。

(2) 学期末における評価の総括例

学期末の評価は、各単元の観点別評価を点数化して合計し、達成率を算出したものを基に10段階にして、評価を算出した。

氏名	評価の観点	単元 1	単元 2	単元 3	達成率 (%)	学期末の総括	
〇〇〇〇	関心・意欲・態度	B (2)	B (2)	A (3)	78% (四捨五入) <7÷9>	B	26 (合計点) ÷ 36 (合計点の満点) × 100 = 72% (四捨五入)
	思考・判断・表現	A (3)	A (3)	A (3)	100% <9÷9>	A	
	技能	C (1)	B (2)	C (1)	44% (四捨五入) <4÷9>	C	
	知識・理解	B (2)	A (3)	C (1)	67% (四捨五入) <6÷9>	B	
							8

※ () 内の数値は、評価を点数化したものである。

(3) 学年末における評価・評定の総括例

学年末の評定は、学期末の観点別評価を点数化して合計し、達成率を算出したものを基に5段階にして、評定を算出した。

氏名	評価の観点	前 期 末	後 期 末	達成率 (%)	学年末の総括		
〇〇〇〇	関心・意欲・態度	B (2)	B (2)	67% (四捨五入) <4÷6>	B	18 (合計点) ÷ 24 (合計点の満点) × 100 = 75%	
	思考・判断・表現	A (3)	A (3)	100% <6÷6>	A		
	技能	C (1)	B (2)	50% <3÷6>	B		
	知識・理解	B (2)	A (3)	83% (四捨五入) <5÷6>	A		
							3

※ () 内の数値は、評価を点数化したものである。

(4) 評価の総括における留意点

観点別学習状況の評価の評定への総括は、特定の観点を重視した重み付けをする場合も考えられるが、学期末や学年末の総括においては、1つの観点を重視するのではなく、バランスの取れた評価の総括となるようにすることが大切である。